

「川場学園」開校準備室だより

令和5年10月13日（金）発行 第6号（発行：川場村教育委員会 開校準備室）

川場学園の「校歌」の歌詞を募集しています。奮ってご応募ください。

8月1日から11月30日までの間、川場学園の「校歌」の歌詞を募集しています。締切りまでまだ時間がありますので、たくさんの方々からの応募をお待ちしております。

ところで、皆さんは川場小学校の校歌がいつできたのか知っていますか。

『川場小百年の歩み』(昭和49年11月21日刊)によれば、完成発表は昭和41年3月9日。それまで校歌がなかったため「児童のためにぜひ校歌を作ってほしい」という気運が高まり、昭和40年10月9日に「校歌作成委員会」が設置され、歌詞の募集が開始されました。農業関係者や店員、家事手伝い、学生など、14歳から64歳の方々32名から応募があり、最終的に、湯原出身で当時17歳だった宗村つや子さんの作品が選ばれたそうです。ここで、宗村さんが同誌に寄せてくださった『歌詞応募の思い出について』を紹介します。

「私は川場の地に生まれ育ち、誇り高い川場小学校に学び、うれしい思い出、楽しい思い出等を心に刻み、昭和37年3月に卒業しました。(中略)その後、中学校を卒業し、当時は東京大塚のお店に就職しておりました。仕事にも東京の生活にもいづらか慣れたある日、母校で校歌の詩を募集していることを知り、ぜひとも自分の詩をと思い、応募することを決めました。(中略)一か所間違えば初めから書いては直しの連続でした。私にとっては、大変な毎日で、詩ができあがったのは締切り当日の朝でした。(中略)ある日、一通の封書が私の手元に届きました。一瞬、体内で何かが激しく騒ぐのを感じながら、「もしかしたら入選？」と心躍らせながら封を切りました。(中略)その後、発表会の日取りを知らされ、ありがたく招待を受けました。会場では、来賓の方々、担任であった先生方に囲まれてとても幸せな一日でした。最後の校歌合唱のときには、うれさと感激のあまり声が途切れ途切れとなり、涙いたしました。作曲の先生も大変だったと思います。本当にありがとうございました」

中学校を卒業して直ぐに上京した宗村さんの心の支えとなっていた故郷の情景や小学校の楽しい思い出がぎっしり詰まった歌詞であることを改めて知りました。

第5回「開校準備委員会」で制服のプレゼンを行いました



兼ねてから計画していた制服のプレゼンを、9月20日（水）に文化会館ホールで行いました。プレゼンには2社から2つずつ計4パターンの提案がされました。具体的には、川場の豊かな自然を表す緑や村内を流れる清流を表す青を基調とした制服、着心地を重視したストレッチ素材の採用、安全性を重視した反射材の袖への装着、経済性を重視した家庭でできるサイズアップなど、どれも工夫を凝らしたものでした。



準備委員お一人お一人がそうした提案に真剣に耳を傾け、説明後には実際に制服のサンプルを近くで見たり触ったりして品質や着心地等を確認しました。また、疑問点等を2社の担当者に聞くなどして積極的に制服の選定に取り組んでくださいました。プレゼン終了後は、それぞれの制服について採点し、優先順位を付ける形で審査をしました。



子どもたちが川場学園に希望と誇りが持てるように、これからも検討を重ね、よりよい制服の選定に繋げていきたいと思ひます。

【通学カバンの選定について】

川場学園の通学カバンについては、準備委員会において7点の推奨 サンプルから採点結果を基に3点に絞りました。その後、その3点について、通学カバン選定の参考にするためアンケート形式で子どもの意見を聞きました。今後、準備委員会において、これまでの経過等を踏まえて総合的に判断して1点に絞る予定です。



開校に向けての準備の進捗状況等につきまして、ご不明な点等ございましたら、遠慮なくお問い合わせください。 川場村教育委員会 開校準備室(室長：井口昌之 0278-52-3458)